

## 【北海道教育委員会教育長賞】

### 裏道を往く子供らの歓声が鷗に変わる夕靄の中

北海道札幌西高等学校 2年 草間 凡平

【講評】海岸へ通じる裏道を子供らが歓声を挙げて走り抜けてゆく。やがて鷗の声が大きくなる。海が近いのだ。今日も夕靄が濃くなって来た。黄昏(たそがれ)だ。詩情豊かに港町をとらえ、「歓声」が鷗に変わる情景を個性的に詠った今年最も優れた作品である。

## 【北海道立文学館賞】

### ホタルがねおしりを光らせみりょうするかがやく星と交信中だ

名寄市立名寄西小学校 4年 大町 悠馬

【講評】純真無垢な心が蛍の輝きに反応する。「みりょうする」と表現したのはお手柄だ。そして「ホタル」の光は「星と交信中だ」と詠うのも面白い。蛍のおしりの光から空の星へと思いを巡らせるのは、子どもらしい夢の世界だ。生き生きとホタルを詠った良い作品だ。

## 【北海道歌人会賞】

### 群青の空に広がる万華鏡携帯電話今夜はいらない

札幌聖心女子学院中学校 2年 瀧田 小麦

【講評】夜空には満天の星。今夜は花火大会だ。群青の空に次々と打ち上がる花火。それは万華鏡そのものだ。じっと夜空を見上げていると、別世界に入り込んでゆく。ケータイに支配されている日常。しかし、今夜は要らない。感性豊かなみずみずしい歌だ。

## 【北海道新聞社賞】

### 夏祭り人ごみの中見つけ出す艶やかな君すそに舞う蝶

北海道小樽工業高等学校 1年 濱田 尚哉

【講評】夏祭りの夜、君を目で追う。目印は蝶の舞う浴衣の裾だ。人ごみの中によく見つけた。艶やかな君、そして裾模様。初々しい君への想いが静かに伝わって来る。新鮮でみずみずしい感性が表現されていて、巧みで水準の高い相聞歌だ。

## 【 優 秀 賞 】

※計 8 名 小学 1～3 年生、小学 4～6 年生、中学生、高校生の各部門から 2 名ずつ

### なつやすみうみでみつけたかいがらがふゆも聞こえたなつのなみおと

札幌市立平和小学校 3年 羽吹 みく

【講評】夏休みに海で見つけた貝殻を手に戻している。その時の思い出が甦り貝殻を耳に当てると波の音が聞こえてきたという、子どもらしい発想で初々しい。実感があり魅力的な作品である。

### 夏空にぽっかりうかぶスーパームーンうさぎさんともあく手できそう

北海道教育大学附属旭川小学校 3年 上野 未悠

【講評】月が地球に一番近づいたときにあらわれる月をスーパームーンと言うのだが、下の句の「うさぎさんともあく手できそう」がまさに子どもの発想で微笑ましい。そうした素直な発想を見ることができるのも、このコンクールの嬉しいところである。

### 網走湖水芭蕉がいっぱいだ月に照らされキラキラ光る

網走市立呼人小学校 4年 高橋 絵萌

【講評】水芭蕉の純白が「月に照らされキラキラ光る」と表現され、春から夏に向かう喜びと期待感にあふれた作品である。「網走湖」という地名が効いて趣のある作品になっている。

### ラワンブキ小人になって雨やどりトロとメイになった気分だ

札幌市立円山小学校 5年 徳岡 諒

【講評】大きなラワンブキの下で雨宿りをしたときのものであろう。「小人になって」が子供らしい発想で斬新である。アニメに出て来るキャラクターになったように感じたというのも新しい感覚で楽しい。

### 去りし夏麦茶の氷が溶けるまで貴方が来るかかけをしようか

枝幸町立歌登中学校 3年 田畑 美汐夏

【講評】思春期の複雑な思いをさらっと詠んで魅力的である。相手は心に思っている人なのであろう。麦茶の氷が溶けるまでにその人が来るか賭けをしようかと、自分に語り掛けているのではなかろうか。

### 一面の紫絨毯踏みしめてやっと来ました富良野の夏に

札幌市立藤野中学校 2年 大滝 麻奈

【講評】一面のラベンダーを「紫絨毯」と表現したところがこの作品のポイントである。それを「踏みしめて」やっと来たという、動きのある作品になっている。「富良野の夏」に焦点を当てているところも季節感があって魅力的な作品になっている。

### 無言でも繋がっているとわかるから君が求める好きは言わない

北海道旭川商業高等学校 3年 細木 楓

【講評】何も言わなくても心の中で繋がっている二人だというのである。高校生らしい淡い恋心が伝わって来る。心が繋がっていれば「好き」なんて言わなくてもわかり合えるものなのではないだろうかと期待しているのである。

## りんごあめ二つ握って走り出す花火にほほえむあなたの元へ

北海道小樽工業高等学校 1年 平野 大成

【講評】お祭りの屋台で売っている「りんごあめ」であろうか。二つを買って君の元へと走り出す。心がわくわくしている様子が素直に表現されていて、魅力的な作品である。下の句に気持ちが集中している点も良いところである。

## 【 佳 作 】

※計 16 名 小学 1～3 年生、小学 4～6 年生、中学生、高校生の各部門から 4 名ずつ

## あめあがりのはらにさいたあじさいはむらさきあおのふうせんみたい

共和町立東陽小学校 3年 秋元 寧々花

【講評】子供らしい素直な作品である。雨上りの紫陽花の花は特に色が鮮明である。その見たまま感じたままに「むらさきあおのふうせんみたい」と表現しているところがこの作品の素晴らしいところである。

## かきごおりいっきに食べてはきんきんに頭の中が冬になっている

札幌市立平和小学校 3年 五十嵐 寛

【講評】かき氷を一気に食べたら、「頭の中が冬になっている」と感じるのには子供らしい感性の表れである。「きんきんに」もこの作品の中ではインパクトのある表現でよく効いている。

## 夏休み家族みんなでスカイツリー下から見あげ後ろにたおれた

札幌市立栄南小学校 3年 傳甫 悠太

【講評】現実感のよく出ている作品である。夏休みに東京のスカイツリーを見た時の感慨を詠んだものであるが、その高さを表現するのに「後ろにたおれた」としたところが優れている。さらに実感が湧く表現になるのである。

## ももちちゃんのおべんとうばこのぞいたよあかあおきいろほうせきばこだ

利尻町立沓形小学校 1年 西島 一樹

【講評】子供らしい素直な作品である。見たまま感じたままを素直に表現することで、読む者の心にすんなりと入ってくる。ももちちゃんのお弁当箱をのぞいたときに思わず「赤青黄色、あっ宝石箱だ」と口から出たのである。

## 風りんの小さくひびくとうめいの夏を知らせるようせいの声

函館市立中の沢小学校 4年 大屋 美空

【講評】風鈴の音色を妖精の声と捉えたところがこの作品のユニークなところで、まさに子供の感性である。暑い夏に涼しさを呼ぶ風鈴の音色を妖精の声にたとえることで、一層さわやかさが伝わって来る。

## いとこがね産まれてきたようれしいなとってもかわいいプニプニほっぺ

函館市立中央小学校 4年 中濱 綾音

【講評】子供らしい表現で生き生きしている。自分の従兄妹が産まれてきたことの喜びを素直に表現していて微笑ましい。「とってもかわいいプニプニほっぺ」と結んだのも効果的である。

## くらやみにほのかに光るお月様海へと照らす一本の道

札幌市立月寒小学校 5年 村上 那月

【講評】夜の海は神秘的である。月がその海を照らして、一本の道のように自分の方に向かってくる感じがしたのであろう。絵に描かれたような情景が浮かんで来て、魅力的な作品である。

## 炎天下時おりひびく風鈴の音色に思う秋のおとずれ

札幌市立月寒小学校 5年 相馬 敬斗

【講評】今年の夏は今までに無く暑い日が続いたが、その炎天下での風鈴の音色に秋を思うというのである。季節の移ろいは色々な思いを運んでくれる。暑い日に風鈴を聞くだけで秋を思う感情もまた子供の感覚なのである。

## カランコロンラムネのなかのビー玉が音を鳴らせば思い出す夏

札幌市立平岡中央中学校 2年 吉田 夢来

【講評】ラムネを飲むと、その中で鳴るビー玉の音。その音を聞くことで夏のあるシーンを思い出すのである。これも青春の一コマを切り取った情景であり、懐かしさを感じさせる作品である。

## 大震災越えた先には甚句あり皆の気持ちを法被(はっぴ)に背負い

札幌市立白石中学校 3年 鉢呂 笑

【講評】修学旅行での体験学習なのであろうか。震災を乗り越えようと始めた甚句の踊りを見ての作品。その感動を「みんなの気持ちを法被に背負い」とまとめたところがこの作品の優れたところである。

## カラーペン赤、青、緑・・・となり黒私は現在何色ですか。

札幌市立伏見中学校 2年 前川 恵理

【講評】中学生の複雑な思いを色にたとえて作品化しているところが巧みである。赤は積極的な人？青は清純な人？緑は・・・？と思いをめぐらす揺れる心の中で「私は現在何色ですか」と問いかけている。

## 君想いゆかた着て行く夏まつり少しだけでも見てほしいから

置戸町立置戸中学校 2年 小田 百夏

【講評】浴衣を着る機会はそんなに多くはない。夏祭りだからこそ着る浴衣姿を君に見てほしいと詠っているのである。純粹で淡い恋心を表現している。「少しだけでも見てほしいから」に気持ちがよく出ている。

## 帰りみちバスにゆられて数センチ忘れられない君との距離

北見藤女子高等学校 1年 鈴木 千織

【講評】学校からの帰りなのであろう。バスの中で隣合わせた君との出会いを「忘れられない君との距離」と表現したところがこの作品の巧みなどころである。「数センチ」の言葉が現実味を帯びて迫ってくる。

## 言ったのに言っていないという先生タイムマシンで戻ってみよう

北見藤女子高等学校 1年 工藤 結依

【講評】高校生ともなると先生に対する批判も厳しい。しかしこの作品は「タイムマシンで戻ってみよう」と直接的に批判していないところが優れている。先生も時には間違ふこともある、そんな場面をさっと表現してユーモアがある。

## 会いたいなそばにいたいなこの気持ちいつも私の一方通行

北見藤女子高等学校 1年 松崎 珠未

【講評】思春期の複雑な恋心を詠んだ作品である。いつも一緒に居たいと思っているが、思うようにいかない現実の切ない気持ちが伝わって来る。「いつも私の一方通行」という言葉によく表現されている。

## すずしげに揺れる風鈴蝉しぐれ耳で感じる夏の訪れ

北海道小樽工業高等学校 1年 小林 廉

【講評】風鈴の音色と蝉の声で夏の訪れを感じるという季節感を詠った作品である。夏の訪れを耳で感じると表現したところにこの作品の特徴があり、優れている点である。

## 【 入 選 】

※計 60 名 小学 1～3 年生、小学 4～6 年生、中学生、高校生の各部門から 15 名ずつ

## 雪がふり、友だちいっしょ、うれしいなあしたもふればまたあそべるね。

北見市立川沿小学校 3年 近藤 風香

【講評】初雪だろうか。子供は雪が降るととにかく嬉しいのである。この短歌の中にその気持があふれていて、ほほえましい歌である。特に「あしたもふればまたあそべるね」が素直な良い句になっている。

### 教室でたんざくにかくねがいごと空にかがやけ私の未来

共和町立東陽小学校 3年 村田 美瑚

【講評】皆で七夕のたんざくを書いて飾ったのだ。「ねがいごと」は何だったのだろう。下の句の「空にかがやけ私の未来」は作者の気持がよく出ている元気な表現になった。

### 夏の夜花火キラキラながれ星まだ見たいけどもうねる時間

共和町立東陽小学校 3年 渡辺 拓海

【講評】花火をしていたら流れ星を見た。次の流れ星を見ていたいけれど「もうねる時間」になり、心を残しながら家に入ったのだろう。全体を通して素直で子供らしい歌になっている。

### 夏の夜空にきらめくほしの海魚のくももニコニコしてる

共和町立東陽小学校 3年 藤田 鈴奈

【講評】夏の夜空を「ほしの海」、雲を「魚」ととらえた発想がよく、のびのびと歌っている。「ニコニコしてる」が子供らしい表現で良い作品になっている。

### 夏の日二足歩行のハムスターテレビのうらにす作りしてる

えりも町立東洋小学校 3年 杉本 沙弥

【講評】ハムスターが「二足歩行」をしながら、テレビの裏に巣作りをしているという珍しい所をよく歌にまとめている。一首全体から、作者の暖かい目差しがよく出ている作である。

### さくらのねはなびらまうよひらひらとはなびらたちのダンスパーティー

美幌町立美幌小学校 2年 中山 芽依

【講評】桜の花弁が散って行くのを「はなびらたちのダンスパーティー」と捉えた発想が、この歌の根幹となっていて素晴らしい。上の句に子供らしい表現が多く可愛い作品となっている。

### なつやすみ海であそびますなだらけバーベキューもおいしかったよ

士幌町立下居辺小学校 3年 二川 星那

【講評】海に入って砂だらけになって遊び、そのまま皆でバーベキューをしたのだろう。夏休みに家族と共に遊んだ海辺の様子がよく伝わって来る。また下の句が良い効果を出している。

### 夏休みクワガタいっぱいみつけたよ小さいけれどだいじな命

士幌町立下居辺小学校 3年 飯島 陸斗

【講評】夏休み中にクワガタをたくさん見つけて飼っているのだろう。「みつけたよ」と報告しているような三句目が自然で良い。そして小さくても命の重さに気づいて結んでいる下の句もよくできている。

### キャンプでねクラスメイトと会いましたびっくりしたけど楽しさ二倍

札幌市立栄南小学校 3年 池田 拓斗

【講評】家族で行ったキャンプで、クラスメイトと会った驚きと喜びがよく表現されている。「びっくりしたけど楽しさ二倍」が、気持ちのよく表れた表現で良い歌になっている。

### 秋になりつながりトンボとび出した空の色にもきせつが見える

札幌市立栄南小学校 3年 林 美生乃

【講評】上の句はつながりトンボが「とび出した」と表現しているのが面白い。空の色に季節の移り変わりを感じている下の句は、低学年とは思えないほどよくできている。

### ゆうえんちジェットコースターはじめてだ音がすごいなスピードすごい

札幌市立栄南小学校 3年 佐藤 梨々香

【講評】初めて乗ったジェットコースターに怖がりながらも楽しんでいる様子がよく伝わって来る。音もスピードも「すごい」という表現が使われ、思わず引き込まれる作品となった。

### もりおかではじめてたべたわんこそば 十三はいしかたべれなかった

札幌市立栄南小学校 3年中野 桜花

【講評】おわんが小さいのでたくさん食べようと意気込んでいたのだろう。十三杯で終わった悔しさが伝わる。子供らしい素直な歌である。

### ねころんでキャンプで見つけたながればし ロケットみたいにビューンととんだ

北海道教育大学附属札幌小学校 2年 亀山 寧々

【講評】夜空のきれいな所でキャンプをしたのだろう。流れ星を見つけた驚きと速さが「ロケットみたいにビューンととんだ」というダイナミックな表現によく出ている。

### ひまわりの花はでかいなたねチビだぼくもこれからぐんぐん育つぜ！！

岩見沢市立南小学校 3年 大碓 晴正

【講評】花と種を比べて自分もひまわりの花のように背も伸びて大きく成長したいという気持がよく出ている。男の子らしい元気のあふれる作品。

### たき流れ七色の橋えがかれしはじけるしぶきまほうのごとく

札幌市立南白石小学校 3年 横田 心暖

【講評】滝に虹がかかったのを「七色の橋」と表現し、それが「まほう」のようだと感じている点がたいへん優れている。また、文語体という昔の言葉づかいにもよく挑戦している。

### 見わたせば金色の稲サラサラと広がる田んぼ収かくの時期

森町立尾白内小学校 4年 熊谷 樹里

【講評】田んぼの稲がみのって金色に輝きサラサラと風に揺れている情景を見事に捉えている。下の句の「広がる田んぼ収かくの時期」は、たたみ込んで表現していて感心した。

### のらねこがおひるねしているとなりでねたんぼぼの花やさしくゆれる

函館市立戸井西小学校 4年 高田 愛音

【講評】野良猫が昼寝をしている様子を子供らしい表現で、うまくまとめ上げている。「たんぼぼの花やさしくゆれる」は、猫を起こさないようにというたんぼぼの気持も感じられ、良い歌になった。

### 暑い日にぼくののどからつるりんこ兄のお土産さぬきのうどん

八雲町立野田生小学校 6年 菅原 正貴

【講評】冷えたうどんが、のどから「つるりんこ」と胃に落ちたということだろう。兄の土産の「さぬきのうどん」を暑い日に皆で食べている様子が伝わってくる。「つるりんこ」が生きた表現となっている。

### ふうりんがかぜにそよそよあおられてちりんちりと夏の音だね

江別市立江別第二小学校 4年 富樫 貢

【講評】風鈴をよく見ている上の句、その音に夏を感じている下の句、ともによくできている。「そよそよ」「ちりんちりん」の擬態語、擬音語も効果的に使われている。

### 夏休み朝早くからこんぶほしならんだすがたがチョコぼうみだい

えりも町立東洋小学校 5年 神田 颯太

【講評】家の仕事の「こんぶほし」を手伝っているのだろう。干すために浜に並んでいる姿が「チョコぼう」のようだと言っている。子供らしい感覚で表現されていて良い作品である。

### 暑い日の夏の海辺で飛んでいた風がはこんだむぎわらぼうし

札幌市立月寒小学校 5年 横田 茉穂

【講評】夏の海岸に飛んでいた「むぎわらぼうし」を「風がはこんだ」と独自の感覚で捉えて表現した。どこかドラマの一場面を見ているような、雰囲気のある作品である。

### 夏の夜北の低空さそりざださそりの心ぞう赤くかがやく

留寿都村立留寿都小学校 4年 西島 諒

【講評】さそり座のアンタレスの赤い光を「サソリの心ぞう」と捉えた所が優れている。そしてその「心ぞう」が赤くかがやいているのだ。上の句もていねいな表現で優れた歌になった。

### とんぼたち一点止まってホバリング秋がきたぞと知らせてくれる

小樽市立朝里小学校 6年 高橋 まさや

【講評】トンボが花や木に止まる前に行う動作を、「一点止まってホバリング」と捉えている所が、この歌の良い所だ。それを「秋がきたぞと知らせてくれる」と感じている下の句も良い。豊かな感受性を感じる作。

### あと5秒チャイムなるまでかぞえてる時計のはりがスローモーション

小樽市立朝里小学校 6年 米山 真央

【講評】何か楽しみにしていることが待っているのだろう。時計を見ながら待っている時は、わずか五秒でも長く感じられるのである。それを「スローモーション」と表現して、気持の伝わる一首になっている。

### ヒューヒューと風に吹かれておにごっこ色とりどりの落ち葉が走る

小樽市立朝里小学校 6年 瀧尾 桃可

【講評】落ち葉が風に吹かれている様子を「おにごっこ」と捉えている。子供らしい発想である。また、下の句も上手にまとめて、良い歌になった。

### 雨上がりかさをとじると見えた虹わたしの心なないろ気分

小樽市立朝里小学校 6年 星 笑花

【講評】上の句の雨上がりの虹と下の句の自分の気持ちが無理なくつながっている。今の自分の心を「なないろ気分」と表現したのも面白い。

応募のハガキの虹の絵も上手できれいに描かれていて感動したことも附記しておく。

### 十五夜に紅葉ながめて思い出すかわいいあの子の小さい手のひら

札幌市立手稲西小学校 6年 谷口 遥菜

【講評】紅葉を見て「かわいいあの子の小さい手のひら」を思い出している。小さな弟か、妹であろうか。「あの子」を、妹や弟とはっきりさせると更に良い歌になった。一首から作者の優しい心が伝わってくる。

### 大切な友達だから聞きたいのスキなところもキライなところも

函館市立駒場小学校 6年 藤田 花梨

【講評】親友が自分の事をどう思っているか聞きたいという強い思いがよく伝わってくる。上の句と下の句を倒置にしている点、聞きたいことを具体的に歌に入れた点がとても良い。



### 水族館ドクターフィッシュぼくの手に集まって来てこちょばしかった

札幌市立旭小学校 6年 澤田 皓生

【講評】ドクターフィッシュを体験したときの歌である。「こちょばしかった」は方言であるが、この歌の中では生きていて、面白い作品になっている。

### なつくればぐーたらせーじんあらわれてわたしをつれてほしへとかえる

札幌市立円山小学校 5年 藤原 ゆらら

【講評】暑い中、ダラダラ生活していると「ぐーたらせーじん」が来て星に連れて行くのではないかという発想が面白い。自分の生活をいましめている歌でもある。表記がすべて平仮名というのも意欲的である。

### 灼熱の赤い太陽照りつけてテニスコートに見える陽炎

札幌市立平岡中央中学校 2年 大和屋 花夏

【講評】夏の暑い日の様子をていねいに短歌にしている。一つ一つの言葉がよく考えられている。下の句の「テニスコートに見える陽炎」は締まった表現である。

### 風が吹き流れる雲に飛び乗って貴方のもとへ飛んでゆけたら

札幌市立平岡中央中学校 2年 佐藤 柚月

【講評】好きな「貴方」への思いが素直に表現されている。「飛んで行きたい」ではなく、「飛んでゆけたら」と省略を使って効果を出している。切実な思いが伝わる歌になった。

### さくらんぼ赤く実ってまんまるに太っているよああ夏がくる

札幌市立札幌中学校 2年 菊地 亜実

【講評】さくらんぼの熟している様子に夏の訪れを感じている。さくらんぼの夏が好きなのだろう。さくらんぼの綿密な描写、そして結句の「ああ夏がくる」が無理なく繋がっていて、さわやかな歌である。

### 夏休みつづいてくれと願っても線香花火ぼりとおちる

札幌市立札幌中学校 2年 菅原 葵

【講評】残り少なくなった夏休み。まだ続いてほしいと願っている作者に対し「線香花火ぼりとおちる」という暗示的な表現を使っている。よく考えられた構成と思った。「ぼとり」が哀しさを誘う。

### 伝えたい迷惑ですかこの思い君をみるたびあふれる思い

別海町立別海中央中学校 3年 水野 桜

【講評】好きだとなかなか「思い」を伝えられない作者の気持ちが切ないほど、伝わる歌になった。一首の中に「この思い」「あふれる思い」と「思い」が二度使われているが、気にならない。結句は「思いあふれる」としても良い。

### たまにしか会えない君とのこの瞬間僕は願った時よ止まれと

別海町立別海中央中学校 3年 渡辺 悠馬

【講評】思いを寄せる「君」と久し振りに会ったのだろう。その気持が「時よ止まれ」によく表れている。下の句は「ぼくは願った時よ止まれ」と倒置を使っていて効果を上げている。

### 夏空の蒼に消えゆく蝉の声周りの木々に木霊しながら

札幌市立白石中学校 2年 竹内 夕佳

【講評】「蝉の声」のみをテーマによく考えて作られた優れた歌である。「蒼」や「木霊」と、使う漢字にもこだわりが感じられる。短歌の原点を見るような作品である。

### 大震災復興甚句で語り継ぐあの日あの時忘れぬために

札幌市立白石中学校 3年 海藤 篤

【講評】修学旅行で被災地に行った時の歌。訪問先で、東日本大震災を忘れずに語り継ごうと作られた甚句を聞いて心を打たれたのだろう。無駄のない言葉で上手にまとめている。

### グラウンドチームメイトが駆けめぐりうばった得点俺が守るぜ

札幌市立米里中学校 2年 沖田 悠暉

【講評】味方が取った点を自分が守り抜こうという意気込が強く感じられ、清々しい作品になった。「俺が守るぜ」が効いている。初句の「グラウンド」の替りにスポーツの種目を入れると更に明確になるだろう。

### 雪降る日彼のでぶくろ右手はめ今年一番ポカポカする冬

北見市立光西中学校 2年 大橋 菜々葉

【講評】彼の手袋の片方を借りて二人で歩いているのだろう。「今年一番ポカポカする冬」が気持ちの伝わる良い句になっている。「右手はめ」がやや窮屈な表現なので「借りてはめ」とすると良くなるだろう。

### 片思いキミが奏でるこの音に静かに重ねた私の音を

斜里町立斜里中学校 2年 橋本 愛佳

【講評】「キミが奏でる音」に片思いの「私の音」を「静かに重ねた」と歌っている。「音」は何の楽器か明らかではない。それぞれの「音」とは何かを読者が様々に想像して解釈するのも面白いと思った。

### 夕暮れの太陽沈む地平線海が静かに飲み込んでいく

札幌市立平岡緑中学校 2年 渡邊 琴寧

【講評】地平線に沈む太陽をよく観察して歌にしている。ていねいによく見ている。下の句「海が静かに飲み込んでいく」は優れた表現である。

### 日の光真夏の海に乱反射輝く水面ダイヤのごとし

占冠村立トムム中学校 2年 青山 桃菜

【講評】一読してよくわかる歌。強い夏の光が「乱反射」し、それにより海面が「ダイヤのごとし」と歌っている。「ごとし」は文語だがよくおさまっている。

### 山を抜け彼方に見える水色の光り輝く海のさざ波

札幌市立藤野中学校 2年 小嶋 雄大

【講評】上の句は動きの感じられる、なかなか巧みな表現である。近づくとつれてさざ波が光り輝いていると歌っている。よく情景を捉えていて、リズムも良く優れた作品である。

### 漆黒の宇宙にかかる流星群螺旋の光り空に流れる

伊達市立光陵中学校 2年 原田 佑磨

【講評】流星群を見た時の歌。「螺旋の光り」はよく見て独自の表現となっている。この歌もよく整ってリズムの良い作品である。これを見た時の作者の感動もよく伝わってくる。

### 月あかり夜もねむれぬまぶしさに今もあなたを思っています

北海道鷹栖高等学校 3年 川上 真智子

【講評】眩しいほどの月明かりの照る今、「あなた」を思っていると歌っている。珍しくないパターンだ

が、「今もあなたを思っています」の会話体の素直な表現が効いていて特徴となっている。

### 満天の夜空に響く君の声無数の星の輝きのよう

北海道鷹栖高等学校 3年 伊藤 泰市

【講評】星空の下で「君」と語り合っているのだろう。「君の声」が、見ている「無数の星の輝きのよう」と歌っている。おさえた表現の中から「君」への気持がよく伝わって来る歌。

### ねえ聞いて音楽なんて聴かないで聞いて欲しいのあたしの声だけ

北見藤女子高等学校 1年 長谷川 紗里

【講評】一首の中に「聞いて」が二度と「聴かないで」が一度入っているのがやや気になる。しかし、歌の内容は私の声だけ聞いて欲しいという願望を前面に押し出し、力強い歌になっている。

### あなたには素敵な未来が待っているくよくよしてちゃダメよダメダメ

北見藤女子高等学校 1年 小笠原 舞

【講評】元気をなくしている友人に、今、はやっているギャグ「ダメよダメダメ」を巧みに使ってなぐさめている様子が伝わる。「ダメよダメダメ」は七音で、結句としてうまく収まっている。ギャグを使った面白さがある。

### たまってく心のコップに少しづつおさえきれずに涙はあふれる

北見藤女子高等学校 1年 山内 葵

【講評】「心のコップ」にたまっていく悲しみがあふれて涙となってあふれるという歌で、発想がすばらしい。「心のコップ」はよく考えられた言葉で、この歌の根幹となっている。

### 淡い恋すこしのあいだ茹でられて冷めるのがおちスパゲッティー

北見藤女子高等学校 1年 原 果菜子

【講評】自分の恋をスパゲッティーになぞらえて歌っている。スパゲッティーを茹でながら自分の恋を思っている、妙に冷静な所が良い。「冷めるのがおち」がよく効いていて、巧みな歌になっている。

### 積もる雪踏みしめている足音を背を向けながらただ聴いている

北見藤女子高等学校 1年 久保 雅美

【講評】後ろから来る、気になる人の雪を踏みしめる音を聞いているのだろう。振り返りたいがそれができないのだ。「背を向けながらただ聴いている」はとても巧みな句である。

### お祭りのたいこの音にさそわれて輪になり踊る夏の夕暮れ

北海道小樽工業高等学校 1年 仁木 達也

【講評】盆祭りの情景を歌っている。盆踊りの太鼓に引かれて輪になって踊ったことを、そのまま素直に表現した。この歌では「さそわれて」が生きている。下の句も締まった表現である。

### 早朝の弁当作りありがとう母のおかげで今日頑張れる

北海道小樽工業高等学校 1年 手塚 将太

【講評】素直に歌っていて心の暖かくなる作品。早朝に作ってくれる母の弁当のおかげで今日も頑張れると歌っている。いつまでもこの感謝の気持を忘れないで欲しい。

### 朝起きて一番先に考える貴男も起きているのだろうか

北海道小樽工業高等学校 1年 天谷 櫻

【講評】気になる「貴男」のことを、起きて先ず考える心の動きがよく伝わる。「貴男も起きているのだ

ろうか」の表現は自然で、上の句と無理なく繋がっている。

### だれもない部屋をながめてつぶやいた夢追う君にまた会えるよね

北海道小樽工業高等学校 3年 小田倉 大輝

【講評】進路の決まった友人が先に部屋を去ったのだろう。友人との別れの寂しさが伝わって来る。「夢追う君にまた会えるよね」は、優れた表現である。

### 桜咲くいつもと違う通学路慣れない靴で歩き始める

北海道江別高等学校 1年 鈴木 麻奈未

【講評】高校へ進学して通学路も変わったのであろう。桜の中、新しい通学路に行くのである。そんな中、新しい靴で歩き始めたという緊張感が読む者によく伝わる。「慣れない靴で歩き始める」は優れた表現である。

### 空見上げ過ぎゆく雲はゆっくりと焦る心が流されてゆく

北海道旭川工業高等学校 2年 森 隼人

【講評】高校生ともなれば、色々と焦ることもあるのだろう。空をゆっくり過ぎる雲を眺めているうちに焦る心もゆっくり流されて行ったという歌である。気負いがなく、素直に歌っているのが良い。

### 化粧して日毎現る美人かな雲の白粉朝焼けの紅

北海道札幌東高等学校 1年 高橋 杏汰

【講評】朝の空の様子を美人になぞらえて歌っている発想が面白い。下の句の「雲の白粉朝焼けの紅」も実に巧みで一首を引き締めている。

### 波に揺る磯巾着にも憂きことはあるだらうかとふと考ふる

北海道札幌新川高等学校 3年 南 泰成

【講評】のんびりと波に揺れている磯巾着にも「憂きこと」、つまり心配や悩みがあるのだろうかという歌。羨ましい気持も入っているのだろう。「ふと考ふる」がよく効いている。